

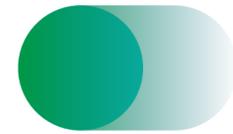
Qlik

生成 AI は 信頼できるのか？

トピック

データは量から質の時代へ

2024



AI ブームの真っ只中 生成 AI は新たな生産 性と発展の時代へ導く 要素として期待が高ま っています

一方、期待を現実に変えることができるのかという懸念も高まっています。生成 AI 向けのデータアクセスは無秩序に開放されており、データの出所の追跡や品質管理も行われてきませんでした。欠陥のあるデータは、誤った考えや指示、虚偽の情報を生み、生成 AI による生産物への信頼性が損なわれていました。このまま放置すれば、生成 AI で強化された虚偽のデータがビジネスや社会に一気に危険をもたらす可能性があります。

より優れた*信頼できるデータを生成するには、新しいモデルが必要です。有効かつ価値を証明されたデータの生成が必要です。信頼できるデータは、分析や自動化と組み合わせて、人間や組織が効率的かつ

適切な意思決定を行う基盤となり、信頼と責任を備えた AI の原動力となります。最終的には、信頼できるデータが資本としてのデータの利用を加速し、データは人的資本や金融資本と同じような位置付けになると考えられます。AI にとってデータは必須の製品となり、取引などで利用される度に価値が上がる未来を想像してみてください。

このような未来は楽しみですが、期待は現実になるのか？その問いに対して多くの議論が行われています。Qlik は、多数の話題を精査して AI・データ・分析・自動化に関するトレンド 10 箇条を特定。AI 経済において、企業が価値のある信頼できるデータを入手するために押さえておくべきポイントを示します。



Dan Sommer, シニアディレクター
マーケットインテリジェンスリード

* 「優れたデータ」の定義：量・スピード・多様性・有効性・価値（5つのV）を通して、ビッグデータの典型的な特性を AI に適した特性へと転換できるデータ

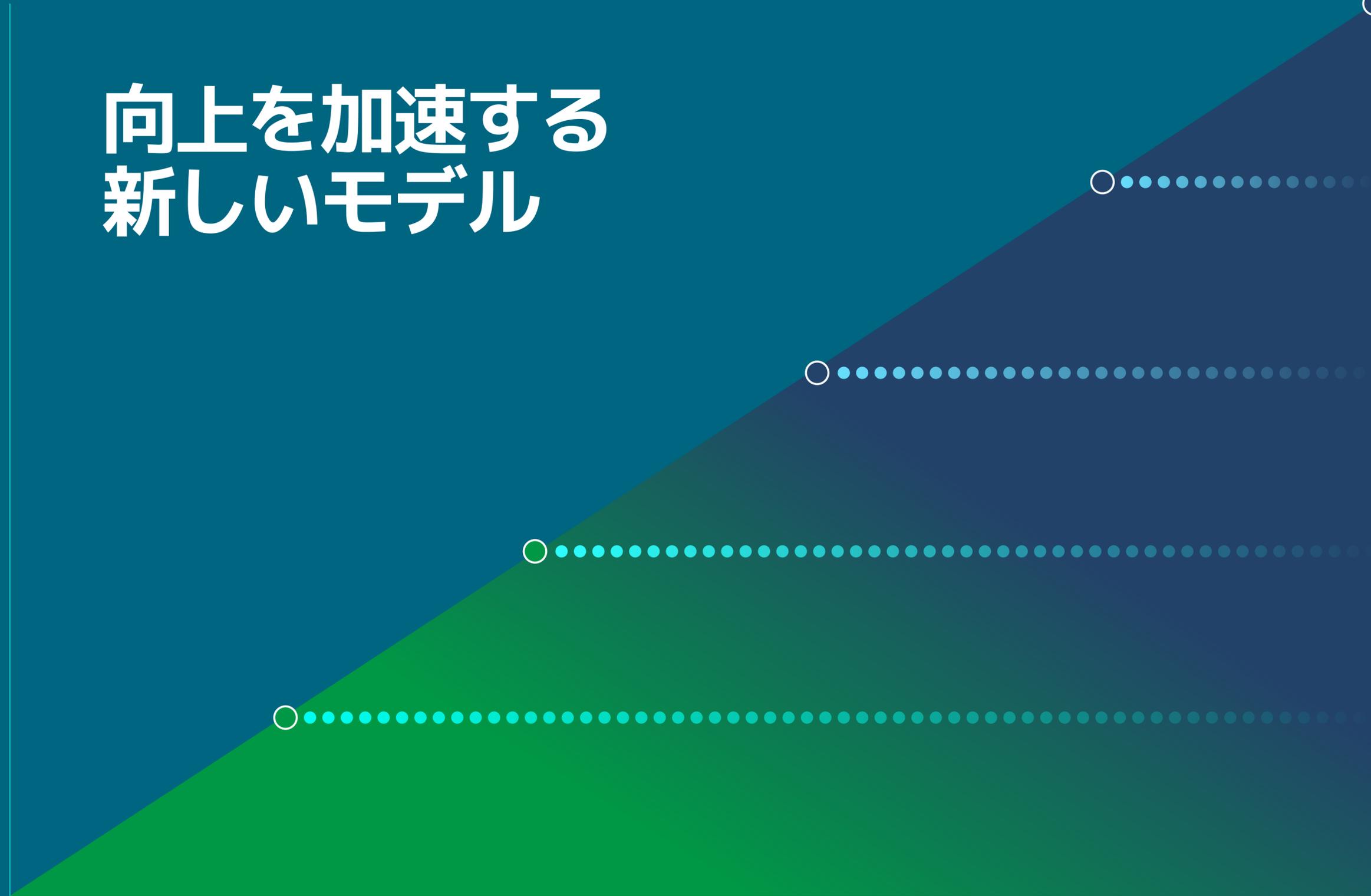
データは量から質へ： 肝となる5つの「V」

膨大なデータを優れたデータへ転換するには、量（Volume）・スピード（Velocity）・多様性（Variety）・有効性（Validity）・価値（Value）という5つの「V」で構成される価値の連鎖を、レベルアップすることです。

今でも多くの企業で実施されていますが、膨大な「ビッグデータ」は、さまざまなソースから一気に蓄積されることから、3つのV（量・スピード・多様性）であるとされてきました。「信頼できるデータ」または「優れたデータ」は

さらに進化し、最も重要とされる他の2つのV（有効性と価値）も含まれています。信頼できるデータは、あらゆるソースから収集され、信頼性の精査、適切なシステムと追跡が行われます。その後、クレンジング・パッケージ化・管理され、共有や取引ができる高品質の製品として扱われます。

向上を加速する 新しいモデル



ビッグデータ

優れたデータ

- **価値 (Value)**
 - ・ データは取引可能な商品へ
 - ・ 自動化と AI が好循環を生む
 - ・ ビジネスには最終段階の AI のカスタマイズが重要

- **有効性 (Validity)**
 - ・ データの出所が重要
 - ・ 新人開発者の台頭に伴う AI リテラシーの必要性
 - ・ データエンジニアリング・分析・データサイエンスの融合

- **多様性 (Variety)**
 - ・ BI から AI 再び AI へ
 - ・ 非構造化データの時代が到来

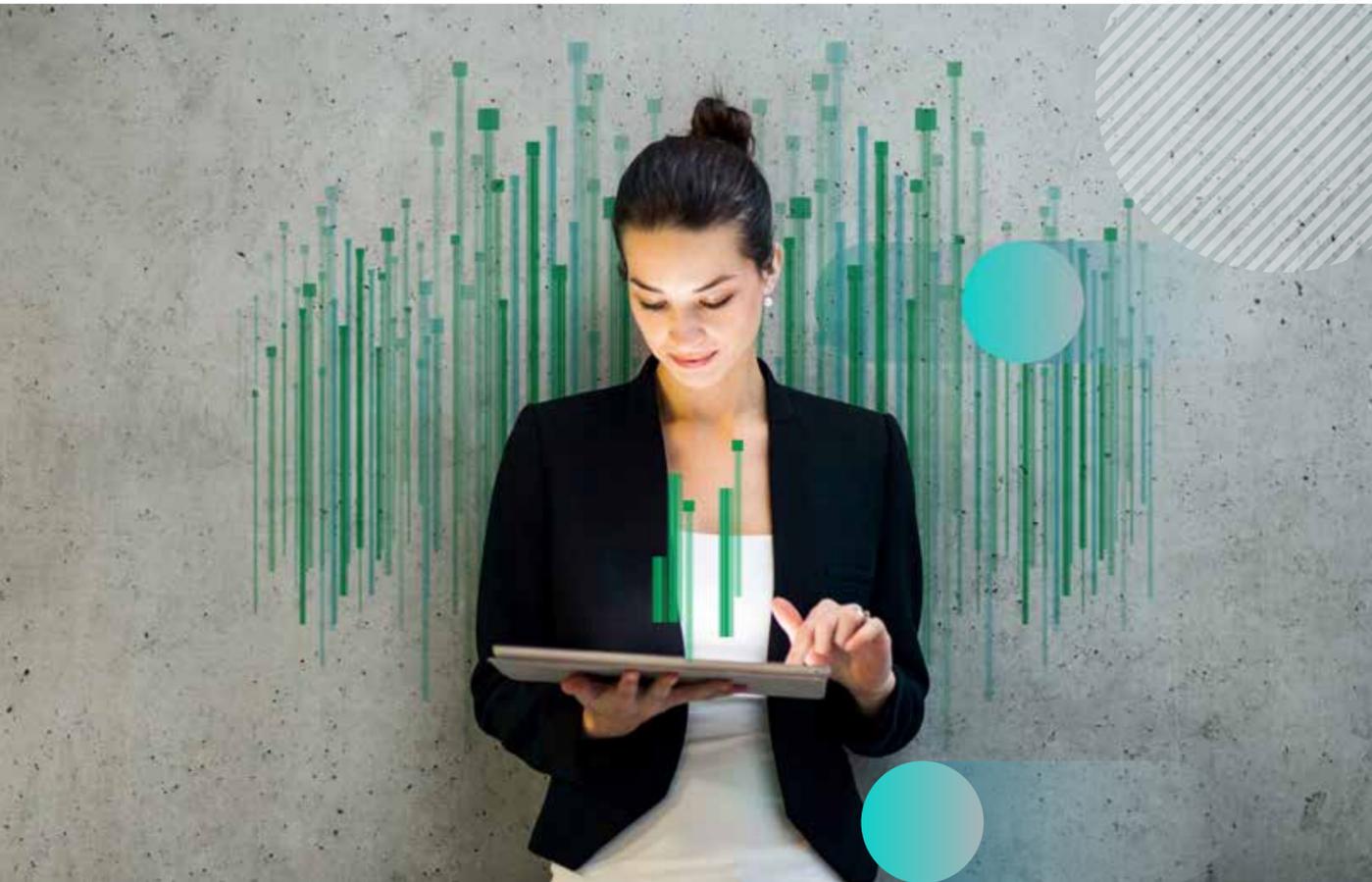
- **スピード (Velocity)**
 - ・ ハイブリッド AI が成熟度のギャップを解消
 - ・ データ利用者のエクスペリエンスを最大化

- **量 (Volume)**

上記の「V」と比較して取り組みが進んでいるため、特筆すべき差し迫ったトレンドはありません。

生成 AI の 有望性

Gartner® 社は、生成 AI をハイプサイクルの頂点に位置付けています。1 年足らずで爆発的に普及し、世界を変革する存在になっています。



データは量から質の時代へ

McKinsey

約380兆円～ 640兆円¹

16 のビジネス部門において、テクノロジーで解決できる 63 のユースケースを分析。生成 AI が世界経済にもたらす効果は、年間約380兆円～640兆円相当になる可能性があります。

期待は現実になるのか？

現状から見て、期待されているようなことが本当に現実になるのか？これまでは「無秩序」の状態でした。大規模言語モデル（LLM）は、学習向けにガードレールなしで膨大な情報を掻き集めることができました。これが反発の元となり、生成 AI は成熟するどころか、状況が悪化するだけだという声も多かったのです。

なぜなのか？AI の性能は、データによって左右されます。ビッグデータが爆発的に増加する時代において、量・スピードを解決して多様性に取り組んでいますが、有効性や価値の問題は未解決のままです。「ゴミを入れたら、ゴミしか出ない」という格言は、AI が主役になっていくと、重大な結果をもたらす警告になるでしょう。信頼への道には次のような課題が待ち受けており、細心の注意を払う必要があります。

¹ McKinsey: The economic potential of generative AI: The next productivity frontier, Jun 14, 2023

信頼されるデータが抱えるジレンマ

データが多すぎる場合

生成 AI は、人間による表現全般（有用 / 無用を問わず）を対象として学習しているため、不要なものや偏りがあります。良いデータが悪いデータによって意図的に汚染されることもあり、誤った考えや事実の誤認につながる可能性があります。2025年までに、「**最大90%のオンラインコンテンツはAIが生成する**」と**専門家は予測しています**。² 生産性という観点からすると素晴らしいかもしれませんが、精度の点では問題視すべきです。合成（偽の）データと信頼できる本物のデータのバランスが崩れると、情報が現実から切り離される「リアリティドリフト」が生じてしまいます。

² Nina Schick interview with Yahoo Finance Live, January 7, 2023

データが少なすぎる場合

同時に、企業はデータを出し控えるようになり、大規模言語モデル（LLM）が利用できる膨大な知識が減少します。**ロイターやCNN**といった大手ソーシャルメディアやメディア系複合企業は、システム上のデータを減らしてアクセスを制限する「データ反乱」を起こしています。この動きによって生成 AI が自由に利用できる質の高い情報が減少し、生産物に直接的な悪影響をもたらし、「AI 向けデータ」経済に突入する可能性があります。

規制をめぐる状況

テクノロジーの導入は信頼性が鍵となります。規制当局は、誤った情報の拡散を抑制し、プライバシー管理の強化に努めています。イタリアなど一部の国では極端なアプローチを採用しており、**ChatGPT などの生成 AI ツールの利用を禁止しています**。より良いデータの統制・出所・系統を求める動きは、法整備に関連しています。現在検討が進められている EU の AI 規制法案でも、大規模言語モデル（LLM）を「高リスク」として複数の制約の対象にしています。こうした取り組みはすべて、既存のモデルの失速や縮小を招き、生成 AI の有効性を妨げる可能性があります。

³ Alex De Vries, a PhD candidate at the VU Amsterdam School of Business and Economics, first published in Joule, October 10, 2023

持続可能なコンピューティング

生成 AI が求める計算能力は高く、コストの増大と環境への悪影響をもたらします。実際、**2027年までに、AI データセンターの電力使用量はオランダ全土の使用量を上回る³**と推定されています。こうした状況を放置すれば、世界経済と持続可能性への取り組みの両方に悪影響が及ぶことになります。

人間への依存

生成 AI には、依然として人間の判断と手動によるラベル付けが必要です。イノベーターは監視と効率性のバランスを取ろうとしていますが、従業員のスキルが不足していると、進捗が遅れる可能性があります。

企業の大きな失敗

今のところ、企業が窮地に追い込まれるような生成 AI の不具合は広く公表されていませんが、生成 AI の利用が増えれば、その可能性もあります。このテクノロジーを早期に導入した企業は、一歩間違えれば重大な結果を招く可能性があるということです。

信頼の危機

企業が生成 AI に対して抱える不信感は、依然として大きい。Qlik の調査では、正式に AI 戦略を実施している企業は**現時点でわずか 39%⁴**に過ぎません。企業の方針にも表れており、大手テクノロジー企業は、従業員が ChatGPT を利用することに二の足を踏んでいます。ビジネスニーズに適した ChatGPT ツールの調整にはまだ時間が必要だからです。企業のデータも AI に合わせた調整が必要です。データの調整は、2つの V（有効性と価値）に取り組めば完了することができます。

新しいモデルの必要性

適切に管理された信頼できる優れたデータがない状態で、生成 AI を解放するのは危険です。社内外を問わず、データの品質・系統・透明性に対して、さらなる説明責任を求める新たな義務を設ける必要があります。遅かれ早かれ実行する必要がありますが、否定的な結論を受けて進めるべきではありません。データ活用の民主化には、高品質のデータ製品の作成に報酬が支払われるべきです。

音楽を 聴く

過去数十年間で、音楽は Napster や Pirate Bay などのプラットフォームから無料でアクセスできるようになりました。ただし、このモデルは持続不可能なものでした。ストリーミングプラットフォームの台頭で経済モデルが変化し、著作権管理に従って管理された上で再配信が可能になりました。このアプローチは、最も再生回数が多かった曲やその作曲者、クリエイターにも利益をもたらしました。

AI の適切な利用には、データ経済におけるこのような進化が必要です。高品質なデータ製品のクリエイターは、データの取引を増やす必要に迫られます。その場合、データの出所を追跡できて有効かつ信頼できる情報を提供することが、根本的な金銭の報酬につながります。重要なのは、データが商品として使用されて評価を得た分、データの品質が向上するという副産物が生まれることです。

データの管理・分析・自動化はすべて、AI に効率と価値をもたらす重要な要素となります。このモデルに向かう道筋とは？ここからは、2024年のビジネスに影響をもたらすトレンド 10 箇条をご紹介します。



1

ハイブリッド AI が成熟度のギャップを解消

従来の AI は最終的に成熟するのか？
生成 AI が追い抜くのか？

ここまでは、膨大な可能性を秘めている生成 AI に関する話でしたが、他にも長い間進行している複数の AI の取り組みがあり、実を結び始めたものもあります。たとえば、民主化が実現しそうな機械学習（ML）やパイプライン全体への標準的な拡張です。最大の誤解の 1 つは、生成 AI がすべてを置き換えるということです。これは大きな間違いです。昨年、市場調査会社の BARC は、従来型 AI の取り組みについて“遊びの時間は終わった”と発表しました。これは、AI が本格導入と拡張ができる段階に入るほど、十分に成熟したということです。特に、不正や解約の分析など、使用法が確立された活用例がこれに該当します。生成 AI が定着していく中で、機械学習やその他の AI は既に無限の可能性を示していました。2024 年は、既存の AI が成熟度のギャップの解消にも活用される可能性があります。

アナリストの予測

30%

2025年までに、AI 市場シェアの最大 30% を生成 AI が占めるだろう。⁵

⁵ Boston Consulting Group

2

生成 AI でインサイトを得る：データ利用者のエクスペリエンスを最大化

AI は技術職ではない従業員をサポートできるのか？

誰もがアプリを構築したいとは思っていません。実際、ほとんどの人は、自分がいつ分析ツールに触れたのか気づいていない「残り 75%」⁶に入ります。こうした一般のユーザーは、分析する時間や意欲、スキルも持ち合わせていないため、今すぐ答えを得ることを望んでいます。また、データ利用者もデータより人間を信頼する傾向にあるため、コラボレーションとデータ共有が重要になります。こうしたユーザーの多くは、自然言語で説明できる、自動生成されたビジュアライゼーションとインサイトを高く評価しています。運用中のシステムで実現できれば、さらに高く評価するでしょう。

アナリストの予測

66%

2025年までに、グローバル 2000 企業の 66% が、チャット・Q&A・事前通知機能を備えた AI 主導型で人間の操作を必要としない BI と分析を導入。ビジネス状況に応じた情報にアクセスできるユーザーが 4 倍に増えるだろう。⁷

⁶ BARC (Business Application Research Center) and Eckerson Group survey “Strategies for Driving Adoption and Usage with BI and Analytics”, March 2022

⁷ IDC FutureScape: Worldwide Data and Analytics 2024 Predictions, IDC #US51295223, Oct 2023

3

非構造化データの時代が到来

生成 AI は非構造化データの分析を容易にできるのか？

世界中のデータの大部分（Forrester 社によると約 80%）は非構造化データであると言われています。行や列に整然と並んでいないデータのこと、その一例がイントラネット上の E メールや文書などです。多くの企業が非構造化データの分析を試みても失敗してきましたが、新しいメタデータおよびセマンティック手法により、そのパワーと価値をようやく解放することができます。ナレッジグラフとベクトルデータベースを RAG（検索・補強・生成）で補完して使用すれば、構造化データと非構造化データを信頼できる方法で組み合わせるチャンスが無限に広がります。回答管理レイヤーと組み合わせれば、検証済みで信頼できる質問と回答を再利用することができます。データ資産全体をスキャンして、データ分析を介して社内で作成したプライベートの大規模言語モデル（LLM）を使用することも可能になります。

アナリストの予測

2 倍

2024年までに、企業が管理する非構造化データは倍増するだろう。⁸

⁸ Forrester, Predictions 2024: Data And Analytics

4

BI から AI 再び BI へとビジネス分析が変化

生成 AI はビジネス分析をどのようにサポートするのか？

生成 AI の革命は、猛スピードで進んでいます。複合分析のようなデータと対話する新しい方法を実現しています。シンプルなチャットインターフェースにファイルをドラッグするだけで、対話を開始するところまで来ています。クエリやコードを生成してコンテンツの構築をサポートし、自動化されたプロセスを加速することも可能です。こうした生成 AI ツールによる分析を単純なデータの可視化やビジネスの予測に利用するケースも増えています。BI の AI 化が始まったのです。

企業が次に求めるのは、エンタープライズ水準のツールで詳細な分析を行い、信頼できるツールで生成 AI のメリットを得られるでしょう。AI が BI に組み込まれるということです。組み込みの可能性・接続性・API で 2 つのモードを切り替えて、各プラットフォームから最大限のメリットを引き出すのです。

アナリストの予測

70%

Gartner® 社の調査では、2026年までに、生成 AI は新しい Web アプリケーションやモバイルアプリの設計・開発作業の 70% を大々的に変えるだろう。⁹

⁹ Gartner, Top Strategic Technology Trends for 2024, 16 October 2023. GARTNER is a registered trademark and service mark of Gartner, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and internationally and is used herein with permission. All rights reserved.

5

データの出所が重要： データの DNA の理解

出所がわからないデータは信用できない

これまで重要とされてきたデータの品質と系統は、AI の世界では不可欠なものとなります。データは、ビジネスの運営だけでなく、AI モデルの学習にも非常に重要です。データの出所を特定・把握することは、現状では出所の追跡ができないパブリック大規模言語モデル（LLM）には特に重要です。データの出所がわからなければ、最高の生成 AI モデルであっても事実とフィクションを区別することは困難です。結果、誤った考えや事実の捏造、偽物を生成するディープフェイクを引き起こす可能性があります。このような生産物を信頼することは、ビジネスに深刻な事態を招くこととなります。だからこそ、今すぐデータの出所を明確にすることを最優先すべきなのです。

「データの DNA 検査」を作成するには、まだ発明されていない技術にデータの出所の特定と暗号化の技術を組み合わせて、データに明確なラベルを付けて識別できるようにする仕組みが必要です。Intel / BBC / Sony などが加盟している「**Coalition for Content Provenance and Authenticity (C2PA)**」や、AI が生成した画像を識別する「**Google Watermarking (SynthID)**」、メタデータを追加したシンプルな Markdown ファイルを生成する **Hugging Face モデルカード** などの取り組みが、既に進行しています。

信頼できるデータの出所と追跡が可能になれば、データに対して自らが責任を負うという永続的なサイクルが生まれます。また、企業独自のデータを取引可能で複製防止の透かし技術が入った製品に転換することも、完成形を目指す上で欠かせない取り組みです。

アナリストの予測

90%

「2025年までに、オンラインコンテンツの90%がAIで生成されるだろう」¹⁰

¹⁰ Nina Schick interview with Yahoo Finance Live, January 7, 2023

6

新人開発者の台頭に 伴う AI リテラシー の必要性

「一般の開発者」に安全に強力な パワーを与えるには？

短期間のうちに、ローコードから平易な英語（またはその他の言語）へとプログラミング言語の主流が移り変わりました。コーディングが簡略化されたことで、アプリ作成などの高度な作業が容易になり、「一般の開発者」が構築したアプリが爆発的に増え、イノベーションが急増しました。その一方で、統制の混乱や過剰なアプリケーションの生成を招く可能性もあります。このプロセスは非常に強力な権限を大勢の人に与えるため、生成 AI のメリットと落とし穴について、従業員を教育する必要があります。過去 5 年間、データリテラシー教育に費やしてきたのであれば、今度は AI リテラシーの教育に重点を移行することが必須となります。同時に、アプリケーションのライフサイクル管理、適切なデータとアプリの促進が、新たに重要性を帯びるようになります。

アナリストの予測

60%

2025年末までに、生成 AI の利用が企業内で普及することで生じる新たなリスクを軽減するため、大手企業の 60% が正式なデータリテラシーと責任ある AI 活用の教育を義務付けることになるだろう。¹¹

¹¹ IDC FutureScape: Worldwide Future of Enterprise Intelligence 2024 Predictions, IDC #US51293423, Oct 2023

7

データエンジニアリング・分析・データサイエンスの融合

高度な知識やツールが不要になると データは民主化されるのか？

IDC の調査では¹²、企業は最高水準の機能を備えたデータパイプライン全体で、より少数のベンダーまたは 1 社のベンダーのみで作業することを望んでいるとしています。データファブリックの進化と共に、新しいプラットフォームが強力な AI・自動化・データサイエンスで強化されれば、新しいタイプのユーザー間で、データエンジニアリングの「民主化」が加速するでしょう。ビジネスアナリストは、パイプラインの初期段階に遡ってデータを管理・準備できるようになります。さらに、高度なワークベンチにエクスポートしなくても、毎日扱うデータやツールに高度な統計モデルを適用できるようになります。

¹² IDC Data Management Survey, 2023

¹³ Gartner, Predicts 2023: Analytics, BI and Data Science Composability and Consolidation GARTNER is a registered trademark and service mark of Gartner, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and internationally and is used herein with permission. All rights reserved.

難しい作業を容易にし、データエンジニアリング・分析・データサイエンスの役割と機能を融合することで、非常に困難なビジネス課題を解決できるようになります。今四半期の利益といった過去の実績を質問する代わりに、「今後はどの顧客をターゲットにすべきか？」「退職の可能性が高い優秀な従業員は？」「決断に至った具体的な決め手は？」といった質問ができるようになります。これまでサイロ化されていた機能同士をつなぎ合わせることで、大量のデータと生産物を優れたものへ移行できるようになります。

アナリストの予測

50%

Gartner® 社の調査では、2026年までに、市場の収束によって企業の 50% が ABI および DSML プラットフォームを構成可能なオールインワン型プラットフォームとして評価することになるだろう。¹³

8

自動化と AI が好循環を生む

AI の焦点が分析から実行に変わっている理由とは？

大規模言語モデル（LLM）と生成 AI は、主に推論や分析の実行をサポートするのに利用されてきました。現在は、推論とアクションの相乗効果を促す大規模言語モデル（LLM）へのアプローチに加え、iPaaS やアクションをサポートする複数の画期的な取り組みが進行しています。これには、転換されたデータが、ほぼリアルタイムで適切な場所に存在することが必須条件です。センチメント分析を用いて自由に異なる回答を自動生成するなど、アプリケーションの自動化に生成 AI を活用する新たな手法が登場するでしょう。生成 AI を自動化と組み合わせることで、ワークフローの接続や構築に要する手作業が減る分、意思決定の管理に注力できるようになります。

チャンスに注目すると共に、自動化と AI を結び付けた結果、AI のパワーと主体性がさらに高まることにも注意すべきです。予防策として、ガードレールを設置する準備が必要です。

アナリストの予測

20%

Gartner® 社の調査では、2027年までに、外れ値の検出やその他の拡張アナリティクス機能は、ビジネスプロセスの 20% を完全に管理・実行する自律型の分析プラットフォームへと進化するだろう。¹⁴

¹⁴ Gartner, Predicts 2023: Analytics, BI and Data Science Composability and Consolidation GARTNER is a registered trademark and service mark of Gartner, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and internationally and is used herein with permission. All rights reserved.

9

ビジネスには最終段階の AI のカスタマイズが重要

ビジネスニーズに特化した生成 AI ツールを開発するには？

初期の生成 AI アプリケーションは非常に柔軟ですが、現在は大規模言語モデル（LLM）を使える一般的なプロジェクトに利用されており、企業対消費者（B2C）ビジネスで活用されています。今後は、業界に合わせてカスタマイズされた AI や、より状況に特化した企業間ビジネス（B2B）での活用例が増えていくでしょう。これらはプライベートの大規模言語モデル（LLM）やアプリケーションの形で、基盤は共通でも「ロングテール戦略」向けにカスタマイズしたレイヤーを備えています。Meta Platforms 社の Mark Zuckerberg 氏が医学研究向けに構築している AI クラスタなどが、これに該当します。

この傾向から推定すると、より少ない労力とコンサルティング時間で、特定の業界や当面の問題に対処する高度なアプリケーションを構築することができるようになります。自社特有のデータが貴重な原材料となり、ドメイン固有のデータやアプリを共有・取引できる「ソリューションファブリック」が出現します。ただし、どの AI がこうした環境を構築する基盤になるのかは、わかっていません。現時点では 2～4 の有力な大規模言語モデル（LLM）が形成されていますが、**今後はオープンソース上に構築されていくだろうという説もあります。**

アナリストの予測

80%

2026年までに、企業における生成 AI のユースケースの 80% 以上が、パブリック API 経由で提供される汎用的な基盤モデルではなく、カスタマイズされた特殊な AI モデルを活用するようになるだろう。¹⁵

¹⁵ IDC FutureScape: Worldwide Future of Enterprise Intelligence 2024 Predictions, IDC #US51293423, Oct 2023

10

データは取引可能な商品へ

AI が企業のデータを収益化する 転換点となった経緯とは？

データファブリックやデータメッシュなど、分散した多種多様なデータを調和するアーキテクチャアプローチは、AI やテクノロジーの進歩によって、昨年の誇大広告らしきものから現実に変わりました。こうしたアプローチの肝となる要素で顧客の共感を呼んでいるのが、「製品としてのデータ」です。製品管理の原則をデータに適用し、解決できる問題の特定、データの用途や利用者を明確にするのです。データの品質・統制・エンドユーザー向けの利便性が重視されます。製品としてのデータは、あらゆる形式の分析と AI に利用できる基盤へと進化しています。

データを価値ある資産や製品として扱うという考え方は、データをカタログに掲載したり、社内さま

ざまな目的に利用するなど、取引ができる商品に転換するということです。データを商品として社外で収益化することが目的です。検証済みのデータを調整・売買し、データの所有者が報酬を得られるよう取引ができるプラットフォームが増え始めています。OpenAI が最近リリースした「GPT」は、重要な節目であり、決定的な転換点となりました。「GPT」は収益分配モデルを備えており、コンテキスト化された AI アプリに対するアプリストアのアプローチを採用しています。追加のデータで強化していけば、さらに進化することでしょう。企業が独自のデータを利用して ChatGPT モデルへの学習を促進し、収益化することもできます。将来的には、音楽業界のストーリーミングサービスと同様に、大規模言

語モデル（LLM）が公認のデータを掻き集めて、アクセスに対する報酬を分配する信頼できるソースとしての取引所が機能するようになるでしょう。データ製品は使用される度に価値が上がっていきます。

アナリストの予測

60%

2026年までに、大手エンタープライズインテリジェンス企業の 60% がデータ製品を特定し、15% がデータ評価手法で製品のビジネス価値を評価するようになるだろう。¹⁶

¹⁶ IDC FutureScape: Worldwide Future of Enterprise Intelligence 2024 Predictions, IDC #US51293423, Oct 2023

トレンド

4 & 5 Vs

生成 AI の未来に不可欠なのは有効性と価値

結論

データの品質は以前から重要視されていましたが、生成 AI の世界ではその重要性が飛躍的に高まっています。ここで、データの5つの「V」が登場します。量・スピードは解決済みですが、多様性については取り組み中です。生成 AI に対する期待を現実に変えるには、膨大なデータを信頼できるデータへ転換する必要があります。そのために、他の2つのV（有効性と価値）も解決する必要があります。自社のデータとメタデータは、唯一無二の資産です。他の2つのV（有効性と価値）を念頭に置けば、AI を有効に活用してデータに基づいた適切な行動が可能になります。

生成 AI の未来が期待から現実になるのかは、このテクノロジーに使用されるデータの品質次第です。データの出所と品質を一貫して徹底的に精査できれば、データを製品に転換することができます。そして、データが AI に使用される度に、社内外でのデータの価値が上がっていきます。より優れたデータが信頼できる大規模言語モデル（LLM）の原材料となり、取引可能な商品になるという進化が見られるでしょう。データ資本が脚光を浴び、生成 AI によるすべてのイノベーションを支える未来が来ると思います。

データを価値のある優れたデータに転換する方法を探る必要がありますが、生成 AI の時代に価値があるものを聞いたら驚くかもしれません。その昔、金を求めて採掘者が殺到した時代は、シャベル・ジーンズ・ブーツ・輸送機関・鉄道を作った人々が多大な利益を得ていました。同様に、分析と自動化で強化された AI 経済の時代は、より良いデータを発掘できる信頼できるプラットフォームが、非常に大きな価値を生むでしょう。

今だけのチャンスを逃さないでください。今は、AI が知識労働のあらゆる側面に組み込ま

れる前の最後の瞬間、「嵐の前の静けさ」なのです。現状に満足していると、取り残される可能性があります。生成 AI が、かつてのインターネットのように世界を一変する時が来ます。生成 AI には課題もありますが、適切な手順で正しい成果へ導き、障害を克服することで、前例のないイノベーションと発展の時代を迎えることができます。

ストレスを感じたら、思い出してください。一人で頑張る必要はありません。膨大なデータを優れた信頼できるデータに転換できる知識を持ち合わせたパートナーと協力すれば、必ず生成 AI の価値を実感することができるでしょう。